



# 2003年 日本建築学会賞 技術

## 表彰業績

建築物の損傷制御構造の研究・開発・実現

今年度の技術部門の応募は2件であった。技術賞が設置された前年度の17件の応募数に比べて激減であり、予定採用件数の3件にも満たない。前年度は、応募件数のみならず、優れた業績が多く、予定採用件数を超えた4件が選定され、次年度より4件を予定採用件数とすべき旨の申し送りを技術部会は学会賞選考委員会宛に行った。選考委員会の裁定は「技術賞は導入されたばかりであり、当面はその推移を見守り早計に採用件数を増やすべきではない」とするものであった。

9月30日の第1回技術部会では、応募件数激減の原因と今年度の審査方針が議論された。応募件数については次のことが議論された。

- 1) 応募事務手続き上問題はなかったか
- 2) 前年度の審査結果が応募意欲を殺いたのでないか

1)に関しては、他分野と同一の事務手続きがとられており、問題は無い。2)に関しては、多くの優れた業績が選にもれたことは否めず、技術業績の評価対象の多面性に照らして、採用件数4件は未だ少ないことは実感されたが、他分野とのバランス上これもやむを得ない。

本年度の応募件数の少なさを一つの試練として受けとめ審査に万全を期することとし、今年度は現地審査を中心とした審

## 選考経過

査を行うこととした。11月18日、19日の両日、審査委員過半数の出席を得て現地審査が行われた。11月20日の第2回技術部会では、現在の技術水準に照らして、応募業績が独創性、新規性、有効性、発展性等において卓越したものであるかを検討した。その結果、次の1件が表彰業績候補として選定された。

業績名:「建築物の損傷制御構造の研究・開発・実現」

(正会員・川合廣樹、正会員・岩田 衛、正会員・和田 章)

本業績は「建築物の鉛直荷重を支持する主要骨組みを基本的に弾性に留め、エネルギー吸収部材である耐震部材を主要骨組みに組み込むことによって、地震時の損傷を極小にする構造形式を阪神大震災以前から先駆的に追求し、その実現性を実証してきたこと」が高く評価された。

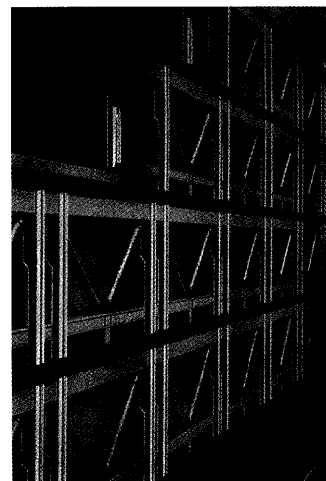
結果として、今年度は予定採用件数にしばられない絶対的な評価となった。この意味では、学会賞審査としては理想的なものであったといえる。一方、技術賞の意義は、優れた業績をより多く顕賞して建築技術の発展を促すことであり、多くの業績が応募されることが望ましい。技術賞は関係諸氏の長年の尽力によりようやく実現したばかりである。技術賞の定着に向けて、会員諸氏のご理解ご協力をお願いする次第である。

## 受賞者

正会員 川合廣樹 君(エイ・ピー・エス・ジーコンサルティング シニア・テクニカル・マネジャー)

正会員 岩田 衛 君(神奈川大学教授)

正会員 和田 章 君(東京工業大学教授)



アイケイビルディング  
所在地: 東京都上大崎2-24-9  
設計: 日建設計(1991年)  
竣工: 1993年

損傷制御構造のプロトタイプとして座屈拘束型部レースを建物外周に配置し、主体構造にはフレキシブルな円形柱とフラットスラブ構造を採用している。  
(撮影: 金子昌弘)